

伊東市

地形概況

宇佐美火山東部斜面と丘陵性山地、天城火山東北部、円錐形の大室山と先原溶岩台地、伊豆高原などからなる。城ヶ崎は溶岩流出による海食崖をなす海岸である。伊東大川の谷底低地から山腹の傾斜地に市街地が拡大した。池地区は旧湖沼の排水による低地である。

地質概況

玄武岩質溶岩や凝灰角礫岩などの多賀火山、安山岩質溶岩や火山碎屑物などの宇佐美火山、安山岩質の遠笠山、玄武岩質の天城火山などからなる。大室山山麓から流出した玄武岩質溶岩は先原溶岩台地を形成し、小室山・伊雄山など側火山も多い。

気象概況

年平均気温が 15.6℃で、最高月平均気温は 8 月の 29.6℃、最低が 1 月の 3.6℃とその較差が小さく、温暖である。年平均降水量は 1973mm と比較的少なく、梅雨から夏にかけて降るが、月降水量の最大と最小の比は小さい。年平均湿度 70%、風速は冬に大きい。

災害事例 地震

- 1995 年 10 月 1 日（平成 7 年）伊豆半島東方沖群発地震 M=4.8
9 月 11 日から群発地震活動が始まり、10 月 1 日に M4.8、伊東・網代で震度 4 の地震を観測し、同 4 日に火山性微動が観測され県は災害対策本部を設置した。その後地震活動は低下し、同 18 日までにはほぼ沈静化した。直接的な地震の被害はなかった。
- 1989 年 7 月 9 日（平成元年）伊豆半島東方沖群発地震 M=5.5
6 月 30 日から活発な群発地震活動が始まり、7 月 9 日に最大規模の地震が発生した。伊東市内では軽傷 22 人、一部損壊 92 戸のほか、道路損壊 16 箇所、港湾施設被害 11 箇所の被害があった。
- 1980 年 6 月 29 日（昭和 55 年）伊豆半島東方沖地震 M=6.7
被害は伊東市に集中し、負傷者 7 人、家屋全壊 1 戸、一部破損 17 戸、山崩れ 22 箇所、道路破損 21 箇所を生じた。
- 1978 年 12 月 3 日（昭和 53 年）M=5.4
伊東市で負傷 1 人、水道管故障 7 箇所、落石 2 箇所、その他墓石の転倒、建物の柱・壁の亀裂などの局地的被害を生じた。
- 1978 年 1 月 14 日（昭和 53 年）伊豆大島近海地震 M=7.0
被害は負傷者 4 人、住家全壊 1 戸、半壊 4 戸、文教施設 10 箇所、道路 12 箇所、港湾施設 2 箇所、水道 7 箇所、清掃施設 1 箇所、崖崩れ 25 箇所、鉄道 2 箇所などに及んだ。
- 1944 年 12 月 7 日（昭和 19）東南海地震 M=7.9
県中・西部で大被害を生じたが、伊豆では殆ど被害なく当地での震度は 3 程度に止まった。

- 1930年11月26日(昭和5年)北伊豆地震 M=7.3
丹那断層を生じた地震で、伊豆半島北部を中心に大きい被害を生じた。当市での被害は死者1人、負傷者24人、住家半潰2戸、建物破損108箇所、荒廃林地32町歩に及んだ。また伊東では火災が発生し、53戸が全焼した。
- 1930年3月22日(昭和5年)伊東群発地震(2月13日~5月末)の一つ M=5.9
伊東で屋根瓦の落下、壁の亀裂。
- 1923年9月1日(大正12年)関東地震 M=7.9
東京・横浜を潰滅させた大地震。当市の被害は死者(行方不明)、伊東町で79(30)人、小室村で7人であり、また家屋全潰は伊東町で219戸(11.0%)、宇佐美村で33戸(6.8%)、小室村で4戸(0.7%)であった。
- 1854年12月23日(安政元年)安政東海地震 M=8.4
当市では大地震と記録されている。
- 1703年12月31日(元禄16年)
宇佐美で死者380人余、玖須美で死者163人、この辺りで波10丁ほど陸に上がるといわれる。

災害事例 津波

- 1960年5月24日(昭和35年)チリ地震津波
南米、チリ沖で起った地震による津波で、日本の太平洋岸全域に被害を与えた。当市では検潮器の記録で東京湾中等潮位上0.9mの津波があった。
- 1944年12月7日(昭和19年)東南海地震津波
津波の高さは検潮器の記録から0.5mであり、被害はなかった。
- 1923年9月1日(大正12年)関東地震津波
有名な関東地震による津波で、当市でも大きな津波に襲われた。その高さは、宇佐美で4~7m、伊東で3~7.5m川奈・富戸・八幡野・赤沢などでも5m程度である。またそのため流失家屋も伊東で294戸、宇佐美で111戸、小室で56戸に及んでいる。
- 1854年12月23日(安政元年)安政東海地震津波
津波の高さは宇佐美3m、伊東3m、川奈4.5m程度で、宇佐美の漁船が流失したことが記録に残っている。
- 1703年12月31日(元禄16年)元禄地震津波
宇佐美では津波が急に上げてきて溺死者約380人といわれ、津波の高さは7~8mに達した。また伊東では、松原・和田など"村中湯舎共引とられ…、溺死160余人"、などと記録されており、高さ8~12mの大津波であった。川奈でも海蔵寺石段上より3段目まで浸水したといわれ高さは8m程度の津波であった。
- 1633年3月1日(寛永10年)
宇佐美で津波の高さ4m程度、民家が流失し死者が2~3人生じた。

災害事例 火山

- 1989年7月13日(平成元年)伊豆半島東方沖海底火山
7月11日夕刻から火山性微動が始まり、13日18時33分に群発地震活動の中心部にあたる手石島の北2Km地点で海面が盛り上がり、引き続いて水柱や灰色の噴煙が観測された。噴火は18時45分まで12分にわたって断続的に観測された。直接的な被害はなかった。

災害事例 台風

- 1958年9月26日(昭和33年)狩野川(22号)台風
伊豆半島一帯で死者・行方不明1,000人以上の被害。伊東で最大日雨量26日318mmに達し、大川・寺田川・小沢川が氾濫、各所で堤防が決壊した。市街地浸水最高水位は4mを超した。死者42人、負傷者732人、行方不明16人、全壊125戸、半壊140戸、流失76戸、床上浸水1937戸、床下浸水2,204戸、田畑流埋57haの被害を生じた。
- 1938年6月29日(昭和13年)
中・東部・伊豆地方で豪雨、6月28日～7月5日の8日間の雨量は647mmに達した。伊東の最大日雨量は29日に312mmであった。
- 1920年9月30日(大正9年)
雨量は熱海で261mm(29～30日)に達し、伊豆地方特に田方郡に被害を与えた。伊東市での被害は死者4人、全壊31戸、半壊22戸、流失16戸、床上浸水133戸、床下浸水467戸、流埋冠水田畑40ha、山崩208箇所などである。
- 1824年8月17日(文政7年)
当日から約3日間、北からの風雨激しく、大波や大水害を受けた。

災害事例 豪雨

- 1961年6月28日(昭和36年)
伊東で13時～16時に160mmの豪雨があった。
- 1902年8月7日(明治35)
県中部以東で大雨、伊東で日雨量348mm。

災害事例 旱魃

- 1926(大正15年)
県下全般に旱魃で農作物に大被害を受けた。伊東での8月の雨量は38mmしかなく平年より254mmも少なかった。

災害事例 冷害

- 1836(天保7年)
天保4年から7年にわたる不作は7年が最も甚だしく、川奈では飢餓人として68家族305人、窮民として31家族132人が救済を受けたという記録がある。